

「式辞」

正門の桜のつぼみもようやくふくらみ始め、本格的な春の訪れが間近に感じられるこの良き日に、晴れの門出を迎えられた3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。（卒業生に礼）

新型コロナウイルスとの闘いが2年を超え、様々な制約が続く中、多くの皆様方のご協力とご理解ご協力を得て、このように第七五回卒業式を実施できたことに感謝いたします。「ありがとうございます。」

さて、今ここで義務教育九年間の終了を意味する卒業証書を授与された七五期生の皆さん、今日から、この伝統ある矢田中学校の卒業生として誇りを持って歩んでいってください。

今、君たちが生きていく時代を思う時、現在進行しているウクライナでの戦争と、2年目を超えたコロナとの共生から得られた教訓を、改めて考えてみたいと思います。

いうまでもなく戦争は最大の人権侵害です。

この瞬間にも、罪のない市民が命を失っている
と事に大きな憤りと悲しみを覚えます。ウクラ
イナは、かつて我が国を含め多くの犠牲が払わ
れた2つの世界大戦の引鉄となった東ヨーロッパ
に位置しています。この戦争は、私たちと関
係のないことはありません。今私たちにでき
る何かを考える必要があると思います。私たち
が3年間を通して学んだ「いじめ」や「差別」
を許さない人権教育は、人と人が互いの違いを
認め合い、共生の道を切り開くものです。今後、
戦争という悲劇につながる道を歩まないための
道しるべとなるでしょう。

今年1月からは、オミクロン株による第6波
の流行を迎え、感染が一層身近なものになりま
した。学校に登校できない生徒も増え、学校を
休業せざる負えない状況にもなりました。しか
し、私たちはこの間、自分自身と自分の大切な

人たちを守るための知恵を身に付けてきました。私たちは、今長いトンネルから向けだし、コロナとの共生の時代を迎えようとしています。多少の工夫が必要かもしれませんが、普通の生活ができる時が近いと信じています。

今日三月一日は、東日本大震災から一一年目の追悼の日です。一一年前のその日も卒業式の午後でした。大きな揺れが関西にも伝わり、その後、想像を絶する光景を目にすることとなりました。いま改めて必ずやって来るであろう災害への備えを確認しておく必要があります。

さて、七五期生の皆さん、皆さんと私の出会いは3年前の入学式でした。入学したころは幼くて、トラブルの絶えない毎日でした。しかし、様々な行事や人とのかわりの中で、皆さんは大きく成長しました。皆さんの中学校生活は、三年間のうちの二年以上が、コロナとの共生の中で過ごすこととなりました。その間、積み重

ねてきた部活動をはじめ、楽しみにしていた学校行事すべてが何らかの制約を受けました。そのような状況下、2回の延期を経て実施された修学旅行は、思い出に残るものとなりました。

私も皆さんの共に下った長良川でのラフティングは忘れることはできません。3年生の体育大会での団結や文化祭での個性あふれる表現など、見るものに感動を与えました。逆境を乗り越えてやり遂げた経験は、きっとこれからの皆さんの人生の大きな力となることでしょう。

今日お別れに際して、このような戦争や感染症が吹き荒れる状況の中、私の心に響いた歌を紹介したいと思います。それは森山直太朗さんの「アルデバラン」という曲の一節です。「君と私は仲良くなれるかな、この世界が終わるその前に」と始まり、「きつといつか儚く枯れる花、いま私が出来うる全てを」と続きます。そして「笑って笑って愛しき人、不穏な未来に手を叩

いて、君と君の大切な人が幸せであるために、
祈りながら *sing a song*」と結びます。これは
NHKの朝ドラの「カムカムエブリバディ」の主
題歌となっています。コロナ禍、戦争の足音が
聞こえるこの時代において、皆が集まり、心を
寄せ合おうという歌に勇気をもらいました。若
い皆さんに、「人は一人ではなく、みんな友とし
て繋がっているんだ」と歌っています。そして
次世代を共に生きる皆さんに、差別と偏見を乗
り越え共生社会を作る勇気を促しています。皆
さんの未来は皆さん自身の行動に託されていま
す。「明けない夜はありません」君たちと君たち
の未来に幸あれ！「ご卒業おめでとうございます
す。」

最後になりましたが、卒業生の保護者の皆様、
本日は誠におめでとうございます。人生で最も
多感で、著しい成長期にあるお子様が卒業証書
を受け取られた姿をご覧になり、感慨もひとし

おとご推察いたします。お子様たちは、この三年間で、人の気持ちを思いやれる立派な人間に成長しました。表現が下手な子もいるとは思いますが、ここまで育ててくださった保護者の皆様への感謝の気持ちを、今、全員が胸に抱いていると確信しています。

この三年間、本校のために多大なるご支援、ご協力を賜り、全教職員になり代わりまして、あらためて厚くお礼申しあげます。「ありがとうございます。ありがとうございました。」（礼）

では、卒業生の皆さん。いよいよお別れの時です。健康に十分注意して、矢田中学校での三年間を誇りとし、大いに活躍されますよう、心よりお祈りして、「式辞」といたします。これからもそれぞれの道で頑張っていてください。

令和四年（2022年）三月一日

大阪市立矢田中学校長 西川 祐功